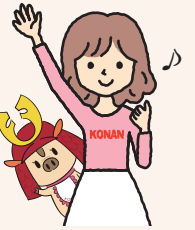


岡本ぶらり 第11回

私たちが紹介します

ナビゲーター/
もっとさんと なんぼーくん
「岡本」のまちをもっともっと知りたい!
好奇心旺盛な女の子と、ご存知甲南
の公式キャラクター。



番外編 にしきたり今昔

今回の岡本ぶらりは番外編。西宮キャンパス(CUBE)があるまち西宮北口を、その歴史も遡りクローズアップします。2009年4月、甲南大学マネジメント創造学部の開設とともに、CUBEが阪急電鉄西宮北口駅前に誕生しました。西宮北口駅は、大阪・神戸間を結ぶ神戸本線だけではなく、宝塚につながる今津線も乗り入れ阪神間のハブ駅となっているため、岡本キャンパスに通う学生にとっても、甲南高等学校・中学校に通う生徒にとっても、昔から馴染みの深いまちです。



稀少なダイヤモンドクロス

西宮北口駅の誕生は、1920(大正9)年。甲南学園の創立が1919(大正8)年ですから、その翌年のことです。大阪・神戸間を結ぶ阪急電鉄(現)神戸線の営業開始にともない設けられました。その後、西宮北口から北に宝塚とつながり西宝線が開業。さらに、西宝線が南の今津まで延伸され今津線となったのは、1926(大正15)年のことです。

この開業された今津線が神戸本線と西宮北口駅構内で平面交差することとなり、この平面軌道交差は「ダイヤモンドクロス」と呼ばれました。大規模な平面交差が設けられることは、高速鉄道においては極めて稀なことであり、鉄道ファンのみならず「西宮北口のダイヤモンドクロス」として全国的に有名になりました。



線路が縦横に交差する
「ダイヤモンドクロス」



「ダイヤモンドクロス」のレールの一部が、今でも阪急西宮ガーデンズ前の高松ひなた緑地に残されているよ!

高度経済成長期以降は、周辺の都市化が進み鉄道利用者が増加。列車の増発が余儀なくされ、交差する列車同士の信号待ちがダイヤ編成の課題となり、1984(昭和59)年に今津線は南北に分断され、ダイヤモンドクロスは廃止されました。

平面交差の「ダイヤモンドクロス」を越えるには1分程度の時間がかかり、通過時は「ガタタンガタタン」と独特の音を響かせたと言われます。その音をなつかしく思い出される方もいるのではないのでしょうか。



駅構内に数箇所あった踏切
(昭和30年代)

今津線に乗り込む人集り(昭和30年代)

待ち合わせの時計塔



現在の時計塔(カリオン)



以前の待ち合わせ場所時計塔(写真左端)



西宮北口駅が現在のような橋上駅舎に姿を変えたのは、ダイヤモンドクロスの廃止後の1987(昭和62)年。この時、現在の西宮北口駅のシンボルとなる時計塔(カリオン)が設置されました。2階コンコースに設置された時計塔、17個の鐘を実らせたカリオンは、今なお、時を告げるとともに、利用者に愛され定番の待ち合わせ場所になっています。

話は逸れますが、「西宮北口駅、待ち合わせは時計塔」と聞いて、もうひとつの時計塔を思い浮かべる方もいるのではないのでしょうか。以前は駅構内にも踏切があり、その傍らに時計塔が設置されており、定番の待ち合わせ場所でした。「ダイヤモンドクロス」の廃止とともに撤去されましたが、その意志は、2代目のカリオンが引き継いでいます。

ブレーブスがガーデンズに

現在、西宮北口駅前は南北に、「阪急西宮ガーデンズ」と「アクタ西宮」といった大型の複合施設が建ち並び、近代的でスマートなまちのイメージで、その様相に変遷してきたのは2000年以降です。では、「阪急西宮ガーデンズ」の広大な敷地、そこは以前、野球場であったことをどれくらいの方がご存知でしょうか。

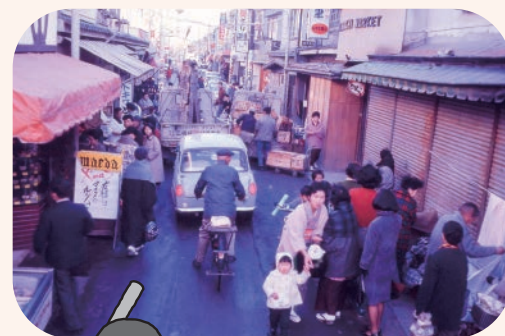
プロ野球チーム阪急ブレーブスが本拠地を構えた「阪急西宮球場(後に阪急西宮スタジアム)」は、プロ野球以外にも球場内に設置したバンクを利用して「西宮競輪」が行われ開催日は人で賑わいました。また、アメリカカンフットボールの競技場としても活用され、甲南大学アメリカンフットボール部「レッドギヤング」も、公式戦を行っていました。一方、駅北側の「アクタ西宮」が整備される以前の周辺は、北口本通商店街や北口市場があり、多くの個人商店が軒を連ね、庶民の生活を支えていました。

番外編、西宮北口の今昔エピソードはいかがでしたか。現在「住みたいまちランキング」で常に上位にランクインする憧れのまちは、その昔から多くの人々が行き交い集まる、活気と熱気にあふれるまちであったようです。



上空からの西宮球場(昭和40年代)。場内に競輪のバンクが設置されている。手前右が西宮北口駅前

※一部写真は西宮市提供



通りいっぱい賑わう
北口本通商店街
(昭和40年代)

